週刊新潮『注目の名医　第56回　スペシャルインタビュー』で、当院の 野島　逸 院長 が紹介されました。

6月29日号（2017年6月22日発売）

注目の名医 56
●スペシャルインタビュー
Special Interview

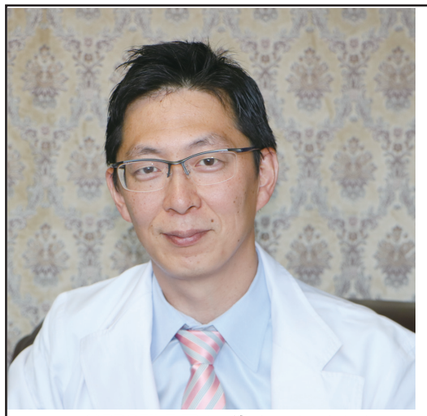
'17 医療ルネサンス

愛知・稲沢市●統合失調症患者の完全寛解と社会復帰へのサポート体制作りに全力

認知症の合併症などで行き場を失った方も受け入れ

医療技術の進歩で認知症・うつ・てんかんなどの疾患も寛解が可能に

精神科・神経科・神経内科・児童精神科・内科・睡眠医療センター・もの忘れ外来
医療法人 回精会 北津島病院
理事長・院長 野島 逸 医師



●PROFILE 野島　逸（のじま・すぐる）
1996年 獨協医科大学医学部卒、神経内科学教室入局、名古屋市立大学精神医学教室・救急部助手、厚生連尾西病院、豊川市民病院、東京医科大学霞ヶ浦病院（現・茨城医療センター）神経内科医局長などを経て2011年現職。
■日本神経学会 神経内科専門医・指導医。

精神障害というと昔から白眼視され閉鎖病棟に入れられ世間からは隔離されてきた。体ではなく精神の疾患として患者自身の思いはほとんど無視された。近年、精神障害者の人権保護、社会復帰がいわれるようになり、1993年ようやく障害者基本法が成立したが、その20年以上も前から、統合失調症の患者の完全寛解と社会復帰を目指して地域医療に貢献してきたのが、「医療法人 回精会 北津島病院」である。その2代目理事長であり、神経内科専門という特徴を生かして、行き場を失い困っている方をサポートしている野島逸医師に話を聞いた。

精神科・神経内科で病床も充実へ

Q内科の入院施設ができるそうですね。

野島　従来、精神科では身体合併症の方の治療の受け皿が乏しく、当院でも必要に迫られていたのと、自分は元々神経内科が専門でしたが、ALSなどの難病の患者さんが、病院でも介護施設でも受け入れてもらえない場面を多く見て、いつか自分でやってみたいと思っていました。たまたま地域の病床数に空きが出て、獲得に動いたところ、医師会の先生方のご理解もあって実現にいたりました。今秋のオープンに向けて、現在工事中です。父の期待には背きましたが、精神科ではなく神経内科の道に進んだのが、今では大きな武器になっています。

睡眠医療センターも有名

Q睡眠障害も扱っておられますね。

野島　精神科では不眠症の方も多いですが、精神科で睡眠を扱えるところはまだ少なく、どうしても薬物療法に偏りがちです。しかし睡眠は生活の一部なので、治療には生活指導も不可欠です。また、夢を見て暴れるレム睡眠行動障害、日中の耐え難い眠気に襲われるナルコレプシーなどの睡眠障害は、対応できる病院も限られ、どこに受診すればいいか分からず困っている方も多いと思います。当院では睡眠の研究を重ねている医師と専任技師を配置し、睡眠時無呼吸症候群の診断・治療だけでなく、これらの疾患にも対応できる体制を整えています。

復帰支援の地域の核としての役割

Q地域での支援の中核を担われて。

野島　稲沢市と協力して長期入院患者の退院促進や社会復帰支援にも力を入れ、訪問看護などのアウトリーチも積極的に行っています。認知症では老人保健施設「第1・第2憩の泉」、国府宮デイサービスセンター、サービス付き高齢者住宅「桜の里津島」、知的障害者の就労支援事業所「いぼりの里」などを手がけています。サテライト診療所の仁愛診療所は、名古屋駅すぐの便利な立地にあり、最近、社会人を対象とするADHD外来を始めました。統合失調症やてんかんなど、精神障害に対する偏見はまだまだ根強く、その解消に少しでも役立てたらいいと思っています。

医療法人　回精会 北津島病院
http://www.kaisei-kitatsushima.or.jp/
※公益財団法人・日本医療機能評価機構 認定病院。（精神科としては全国で3番目）
診療受付◆8:30～11:30　診療科によっては午後診療あり。予約制。初診は予約のお電話を。詳細はHPでご確認下さい。**休診日**◆日曜・祝祭日・お盆・年末年始
所在地◆愛知県稲沢市平和町嫁振307
アクセス◆名鉄津島線「勝幡駅」タクシー5分、同「津島駅」タクシー10分、名鉄尾西線「六輪駅」徒歩7分。※駐車場有
電　話◆0567-46-3530
北津島病院　検索